

vol. 64

バレエ・リュスを彩った ダンサーの肖像 2

展示期間 / 2017年9月14日(木)~12月24日(日)

構成 / 森瑠依子

展示 / 関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

前回の初期バレエ・リュスのスターたちに続き、今回はニジンスキーの退団後、1914年に入団したレオニード・マシーンが首席振付家として活躍した時期のスターたち、およびマシーンの後に振付家を務めたプロニスラワ・ニジンスカをご紹介します。この時代にはキャラクター・ダンスを得意とする、演技力に恵まれたダンサーが多数活躍した。

<レオニード・マシーン 1896-1979>



バレエ・リュスでは少数派のモスクワ、ボリショイ・バレエ出身のダンサーで、コミカルでエネルギッシュな役柄やキャラクター・ダンスにすぐれ、スター・ダンサー兼振付家として大活躍した。1914年に『ヨゼフの伝説』の主演を踊ってバレエ・リュスにデビューし、翌年には『真夜中の太陽』で振付家としてもデビューを果たす。1917年にはサティの音楽、ピカソの美術による前衛的な『パレード』を発表して衝撃を与え、『上機嫌な婦人たち』(1917)、『三角帽子』『不思議な店』(共に1919)などの踊りと振付で高い評価と人気を得た。イダ・ルビンシテインのバレエ団、バレエ・リュス・ド・モンテカルロ、バレエ・シアター (ABTの前身) などでも振付を担当。ハリウッド映画にも出演・振付で参加し、『パリのよろこび』(1941)、『赤い靴』(1948)、『ホフマン物語』(1951)、『ナポリの饗宴』(1954)などで、機敏で表情豊かな踊りと演技を見ることができる。

<スタニスラス・イジコフスキー 1894-1977>



ワルシャワ出身、際立ったテクニックで人気を博したダンサー。バレエ・リュスでは『薔薇の精』『ペトルーシュカ』『青い鳥』といったニジンスキーの当たり役の多くを引き継ぎ、マシーン振付の『上機嫌な婦人たち』『三角帽子』『不思議な店』『プルチネラ』などのコミカルな役柄で成功した。

バレエ・リュス解散後はイギリスでの活動が多く、1933年にロンドンでヴィック=ウェルズ・バレエに客演。現役引退後はサドラーズ・ウェルズ・バレエ(現英国ロイヤル・バレエ)、

ロイヤル・アカデミー・オブ・ダンシング、プライベート・レッスンなどで指導にあたり、マーゴ・フォンテインらを教えた。師であるエンリコ・チェケッティが1918年にロンドンに設立したバレエ学校に協力し、シシル・ボーモントと共にチェケッティ・メソッドの解説書を上梓。手先が器用であり、大聖堂などの精巧なミニチュア木工細工を残している。

<リディヤ・ソコロワ 1896-1974>



本名はヒルダ・マニングスで、ディアギレフの命名でロシア人ダンサーとして活動。特にマシーン作品で人気を得て、イギリス人で最初のスター・ダンサーになった。アンナ・パヴロワや

ミハイル・モルドキン の指導を受けた後、1913年にバレエ・リュスに入団。マシーン振付『春の祭典』の選ばれた乙女、『不思議な店』『女の手管』のタランテラ、『三角帽子』の粉屋の妻、ニジンスカ振付『青列車』のペルルーズなどを当たり役とした。バレエ・リュス解散後は1935年に、一時期公私共にパートナーだったレオン・ウォイジコフスキーのバレエ団に参加した他、バレエ・リュス作品のプロデュースや上演指導に協力した。1960年に発表した自伝『ディアギレフのために踊る』には、バレエ・リュスの舞台や公演を巡る様々な出来事、ダンサーの日常が生き生きと描かれている。

<プロニスラワ・ニジンスカ 1891-1972>



ワースラフ・ニジンスキーの妹で、20世紀の重要な振付家の一人。ペテルブルグの帝室舞踊学校でチェケッティ、フォーキンらに学び、兄と共にバレエ・リュスに参加。『牧神の午後』のニンフ、『ペトルーシュカ』のバレリーナ役などを踊って、キャラクター・ダンサーとしても活躍。『結婚』『牝鹿』『青列車』など、今見ても斬新で、話題性に富んだ新作の数々で高い評価を受けた。数多くのバレエ団や自らのバレエ団(テアトル・コレオグラフィック、バレエ・ニジンスカなど)で活動しており、1925年にバレエ・リュスを離れた後、パリ・オペラ座、イダ・ルビンシテインのバレエ団、バレエ・リュス・ド・モンテカルロ、ポーランド・バレエ、バレエ・シアター、クエバス侯爵のグラン・バレエなどで振付家やバレエ・ミストレスを務めている。1940年代からはアメリカに住み、1960年代にフレデリック・アシュトンの依頼で英国ロイヤル・バレエで『牝鹿』『結婚』を上演した。自伝『プロニスラワ・ニジンスカ 前半生の思い出』に1914年頃までの活動がつつられており、特に兄ワースラフの動向が詳しく記載されている。



Chacott Web Magazine【DANCE CUBE】連載中
「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」
(text 森瑠依子)



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用